

## 平成17年度 のどかな家 生活報告書

### 1. 生活全般について

少しでも快適に、ゆったりと、落ち着いて過ごして頂けるように、テーブルの配置換えや、環境整備に心掛け、大きな事故やケガも無く過ごして頂けたと思う。

個々の性格や癖、生活習慣を把握し、集団生活の中ではあるものの、少しずつではあるがより個別のニーズに応える気配りが出来たように思う。

一日の生活は、時間との戦いを繰り返しているのが実情であり、特に予定外の行事等に関しては、介護職員側の柔軟な対応が難しく、ご利用者の方や、他職員に迷惑をかけてしまうこともあった。

### 2. 食事について

自宅での食事をイメージすると自分の茶碗・箸・湯飲み・スプーンで食事を摂るのは当たり前であるが、ご利用者と職員全員の食器を家で管理することは、物理的に困難であった。しかし、一部のご利用者の方には、自分の物を使用することにより食事の雰囲気を感じて頂けたと思う。

配膳用のお盆は便利ではあるが、見た目にも給食のイメージが強く、また十数枚のお盆を洗浄することで効率の悪化を招き、廃止してみようと数日間試したものの、個々の食事形態の違いと食数の多さ、夜勤者が把握するのも困難な状況にあり、何よりもご利用者から『何にやってんだ。まだか〜』と大声をだされてしまうなどの支障を来したため、現在も使用継続している。そのような中でも、ランチョンマットを数名の方が使用されており、少しは給食イメージが和らいでいる。

長期間ベッド上で食事摂取されていたご利用者が、褥瘡痕の経過観察の状態まで良くなったため、リクライニングでの移乗を試み、食事摂取して頂いている。離床し座位にて周囲の様子を覗きながら、とても穏やかで、表情豊かに食事されている。発語も多く会話が成り立つ時がみられている。これほどまでに臥床時と離床時の表情が違うものなのだと痛感させられた。

嚥下困難なご利用者には、看護職員との連携を密にし、誤嚥防止に配慮していたが、ご利用者の体調不良により12月末より経管栄養に移行され、様子観察行いながらホールで過ごされている。また、身体的に長時間の離床困難なご利用者は、どうしても居室にて一人で過ごされる時間が多いため、せめて昼食時だけでも皆さんと一緒に食事の雰囲気を感じて頂けるよう、ベッド移動によりホールで食事を摂って頂いている。

ご利用者の要望に副ったご飯の量やキザミ具合、嫌いな物の代替品等（海苔・梅干し・漬物・果物）で対応できたことと、食事摂取量が度々少なかったような場合は、看護職員や栄養士に相談することで、柔軟な対応が取れるようになった。

### 3. 排泄について

オムツ交換の際、陰部洗浄を行なうことにより、尿臭の軽減を図ることができた。また、スキントラブルも少なくなってきた。

トイレ介助時にパット交換を行なう場合は、トイレに準備して置いた清拭タオルを、お湯で絞って対応することで、ご利用者の側を離れることなく安全に、そして清潔を保つことが出来てきた。

立位困難な方でも、尿意・便意がある方には、2人対応にて安全に介助を行なうことで、トイレでの定期的な排便を促すことに繋がってきた。

本人からも毎回の様に、『ああ～良かった。スッキリしたよ～。』との言葉と笑顔がみられている。

また、看護職員との連携を特に密にし、褥瘡悪化に細心の注意を払い、夜勤者の協力も得ながら1日8回～10回のオムツ交換及び体位交換を継続してきた。その結果、仙骨部に重度の褥瘡があったご利用者1名が完治され、現在は褥瘡痕の状態観察しながら、リクライニングへの移乗でお昼を過ごされる状態までになっている。その様な状況の中、朝・夕2回の褥瘡処置を行い、排泄物で汚染されないようにパットのあて方やシートの活用を工夫し、体位交換時も2名で対応にあたっている方がおり、完治されたご利用者のように、少しずつでも良くなって来てくれることが、スタッフの期待と遣り甲斐に繋がっている。

#### 4. 入浴について

プライバシー確保の意味では、以前の入浴方法に比べ、とても良くなったと思うが、カーテンを取り付けていても忘れてしまったり、活用していてもそのカーテン1枚を挟み、男性と女性が入浴されている状況もあり、違和感を抱くが、限られた時間内に、効率よく、そして安全にゆったりと入浴して頂く事を優先すると、口を閉ざしてしまうようになる。着替えの際にも、タオルを活用し、極力肌を露出しないように工夫しながら行なうのも介護技術として習得しなければと思う。

『自分用の入浴タオルを準備して入浴していただけたら・・・』の声があったが、なかなか実行できず今後の課題にもなっている。

#### 5. 行事やアクティビティーの取り組みについて

外出の機会が少ないご利用者の皆さんに、天気の良い日には外気浴を兼ねて気分転換を図って頂く事ができた。

看護職員のリハビリを兼ねてのレクは、時間的にも回数的にも、ご利用者の負担にならず、無理なく参加することが出来ている。『今日は何の遊びするんだ?』『明日もあるのか?』と意欲的に参加されるご利用者もみられる。

ご家族より季節の野菜や果物を頂くと、のどかな家の料理人が手際良く調理し、皆さんに『うまい。おいしい。』と喜ばれていた。しかし、ご利用者の皆さんと一緒におやつ作りを行なうことは難しかった。

各行事については、事前に連絡があっても、予定通りの時間までに集合できなかつたり、(朝食時間が長びいたり、排泄介助、褥瘡処置等で)行事に参加されると、興奮気味になり突然怒鳴りだすご利用者がおり、他のご利用者にも悪影響となってしまう場合があった。介護職員が間に入っても逆効果になってしまう等、対応困難な場合が多かった。

賀寿祝いの際は全職員の協力を頂き、和やかな雰囲気の中、思い出に残るすばらしい誕

生祝いとなった。計画を立てても業務中に行なうことが出来ず戸惑うこともあったが、のどかな家の職員が一致協力したことでクリア出来たと思う。

## 6. 一年を振り返って

職員の異動や、業務内容の変更、新規ショートステイご利用者の受け入れの他、ホーム全体の業務を担っているものもあり、早番2名・遅番2名の4人体制ではあるものの、ご利用者に思うように関わることが出来ず、これでいいのかなと疑問に感じながらもケアと業務を進めて来たように思う。そのような状況でも、職員が何気なくご利用者に声かけをただけで、その日のご利用者の体調や精神面での動きを捉えられることや、何かの変化に気付く事が出来てきたと言う事が、家の一番の収穫と言えると思う。

『ユニットケアなんだから、こうしなくちゃ。こうやらないと、ユニットとは言えない。』ではなく、職員間での話し合いのもと、こんな援助方法してみたら、ご利用者がこんな風に変わってきた。そのように変わったことで、全体もなんとなく落ち着きが見えてきた……。等と、そんなことの繰り返しで、結果的に出来上がったのが、のどかな家のユニットケアなんだと、そう感じる事が出来たら、肩の荷を降ろし楽に、もっと楽しくご利用者と接する事が出来るのではないかと感じた。

## 平成17年度 ほほえみの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

昨年同様、皆さんから提供して頂いた野菜の苗を前庭の畑で育て、収穫した野菜を漬物にしたり、果物をミキサーにして提供したところ、おいしそうに食べて頂きました。また今年初めて植えたさつま芋の収穫は1本。残念ながら不作でした。

業務については、介護職員が1人増えたことにより、おしぼり干しや消毒液の交換・衣類の整理なども以前より細目に出来たり、寝たきりだったご利用者を離床させ一緒に過ごす時間が出来た。またトラブル防止に何度も席替えをした結果、炬燵を囲んでテレビを見ながらご利用者同士が笑顔で会話をされるようになった光景などを見ると「あーこれが本当の家族なんだなあー」と感じる事がありました。ただ残念なのは体調不良により入院されていたご利用者を看ることが出来なかったことと、終末ケアを迎えられているご利用者に、今後のケアについて毎日のケア内容の質について取り組んで行けずに終わってしまうことです。

今後1ユニットとしての職員の配置を希望し、更にご利用者に満足していただけるような体制作りが必要だと思えます。

### 2. 食事について

フードプロセッサーを購入して頂いたことにより、おやつ時や食事時に収穫した果物や野菜・副食をミキサーにし提供することが出来き、とても喜んで頂きました。また厨房とコンタクトを取りながらご利用者の生活習慣の延長に合わせ、バナナやパン・ゼリーなどを提供してきたことから、嚥下困難時経管栄養になる寸前まで、口から食べることの喜びを味わって頂けたのではないかと思います。苦勞した点については、糖尿病を持つ2名の方の血糖バランスに注意し、おやつ時の対応や誕生日などのメニュー希望に対し、対応して頂くことが大変でした。

### 3. 排泄について

立ち上がりが困難だったご利用者の訴え時の訪問や誘導回数を増やしたことにより、補助具を使用せずスムーズに介助が出来るようになったと言われるようになったことは嬉しい限りです。

また、経管栄養のご利用者が快適に過ごせるようパット交換の回数を増やし、尿臭のあるご利用者には洗浄などを行い、尿量に合わせたパットを使用しながら、皮膚トラブル防止に努め改善してきました。現在、トイレ介助者6名・オムツ使用者5名ですが、不機嫌時精神安定のためにベッド上で交換を行ったり時間を置いて介助をするようにしています。

### 4. 入浴について

入浴を拒否されるご利用者には、様子を伺いながら再度声かけ入浴して頂き、その日の身体状態に合わせて入浴形態を変えることで、無理なく安全にゆったりと入浴して頂けたと思います。終末が近づいているご利用者が自傷行為や発作などで入浴が大変なときは、安楽な状態を保つために、2～3人の介護職員・看護職員で色々な形態で施行し、時間もかかって

しましたが、快く協力を得て入浴をすることができました。  
一時期でしたが衛生介助をすることができ、ご利用者の状態を知ることができました。

#### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

看護職員・主任・副主任の協力のもと、春には桜の花を見ながらご利用者の家の近くを通るドライブを実施。夏には外気浴を兼ねて中庭で食事をして楽しみ、秋には紅葉を眺めながらドライブを実施。季節感を味わって頂くことが出来たと思います。

介護職員が2人勤務のときは、冬至南瓜やホットケーキ作りなどをご利用者の前で作り、見て楽しみ食べて喜んで頂きました。また、自力で食べられないご利用者に、他のご利用者が介助してくれるというほほえましい光景もありました。家で行った団子さしにも「あとほどごだ・どこにさすんだ」と言われながら楽しく行いました。

#### 6. 一年を振り返って

家の介護職員として期間も短かったので、落ち着いた態度でご利用者に接することが出来ず、他の介護職員から指導されることもありました。帰宅願望や排泄の訴え時すぐに対応できず待たせてしまうことがあり看護職員・主任・副主任に協力して頂くことも多々あり、また、ご利用者一人ひとりの声かけや話相手にもなれず、淡々と業務を行う日々でありコミュニケーションが足りなかったように思います。ご利用者と接することが出来ずにいたところレクリエーションに参加する機会ができとても良かったと思います。

## 平成 17 年 なごみの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

○ 季節ごとにリビングの装飾を行い、季節感を感じてもらえるよう工夫しました。生活にメリハリをつけ生き生きと生活を送って頂こうと次のように支援をして参りました。

月	内 容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見を兼ね大倉方面へバスハイクに行かれる。</li> <li>・天気の良い日には外気浴をしながらレクリエーションを楽しまれる。 (新緑を眺め季節感を味わっています。)</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬の山菜「ふき・わらび」の皮むきをされたり、柏餅作りを行いました。 (季節感と生活感を味わうことが出来たようです。)</li> <li>・飯桶のお祭りを見に行かれ郷土の祭りを観て懐かしまれる。</li> <li>・一部のご利用者がドライブに行かれる。</li> <li>・外気浴とレクリエーションも楽しまれる。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売があり、目の保養をされた方や買われた方もいます。</li> <li>・プランターにミニトマトの苗を植える。 (ご利用者の方で植え方のご指導をしてくださる方もおりました。)</li> <li>・中庭において昼食やおやつ摂り気分転換を図る。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕飾りの短冊に願い事を書かれる。</li> <li>・暑くない日には外気浴を行う。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のご理解・ご協力がありお盆には2名の方が自宅へ外泊されました。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7名の方が川俣方面へ出かけ、回転寿司を食べたり、スーパーでショッピングも楽しめる。(大好評でした「また行きたい!」との声も聞かれました。)</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会へ向け玉入れや他競技の練習をされる。 (ご利用者の意欲を引き出すことが出来ました。)</li> <li>・ホットケーキ作りを行いました。(ご利用者も協力して下さいました。)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回紅葉狩りに出かける。(気分転換と季節感を味わっています。)</li> <li>・干し柿を作りました。(積極的に皮をむいて下さる方もおりました。)</li> <li>・寒くなり外へ出ることが少なくなり、ストレス予防の為フロアでのレクリエーションを活発に行いました。(なごみの家のご利用者は踊り観賞と歌の好きな方が多いです。)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスツリーを飾りご利用者と共に楽しみました。</li> <li>・餅つきにも参加されかけ声をかけられていました。</li> <li>・ご利用者と共になりんごの皮をむきりんご煮を行いました。</li> <li>・1名のご利用者が自宅に外泊をされる。</li> <li>・なごみの家で作った干し柿を美味しく戴きました。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者と共に団子を丸め団子刺しを行いました。</li> <li>・正月の余暇としてカルタ取りを行いました。(競争心が見られました。)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッサージチェアが入り毎日利用されています。</li> <li>・ストレスが溜まらないようにと歌われたり軽く体を動かすなどレクリエーションを活発に行いました。</li> </ul>

## 2. 食事について

- なるべく意欲の芽をつまないためにも、ご利用者自身で食事を摂って頂き自分で食べることの行為を大切に、ご利用者の状態に合わせた食事を提供することで、ご利用者のペースで美味しく食事が出来るよう心がけ、提供出来たと思います。
  - ・ 義歯が緩くなり上のみ使用で褥瘡も出来ており、残食の多いご利用者がおられましたので栄養状態を良くすることと褥瘡を予防するためケア会議を開き、入れ歯を使用せず超刻みで提供したところ完食されるようになりました。結果、栄養状態も良いためか褥瘡も治りました。
  - ・ 食事時のエプロン使用者についても、ナイロン系ですので夏の間は暑いのでは？と思い布のエプロンを使用してみました。
  - ・ 右片麻痺のご利用者がご飯茶碗としてどんぶりを使用されていましたが、深過ぎることとスプーンですくわれる時に軽くて食器が動き食べづらそうでしたので、瀬戸物の浅い食器を使用して頂いたところ食器の重みにより安定感もありスムーズに摂取できました。

## 3. 排泄について

- 褥瘡予防と不快感を少しでも緩和出来るよう個々に合ったパットを見直し、オムツ交換のタイミングも見直したところ、今のところ褥瘡になられている方はおりません。
  - ・ 声かけとコミュニケーションを図ることにより信頼関係を築け、頻回にトイレに行かれていたご利用者が以前より穏やかになりました。
  - ・ 一部介助を要する2名の方が自立に向けた支援を促し行ったところ、1名の方はリハビリパンツにパット使用でしたが今では布パンツのみとなり自力で排泄が出来るようになりました。もう1名の方も見守りではありますがご自分でズボン等の上げ下げが出来るようになりました。
  - ・ 暑さ対策のため、オムツ使用の3名の方に夏季の間ボクサーパンツとパットで試みたところ発汗も少なく蒸れ防止にもなったようでした。
  - ・ 歩行不安定のご利用者が夜間帯トイレの場所が分からなくなり、居室の窓ガラスに向かい放尿されることが多く、対応としてセンサーマットを使用したところ、安全にトイレへ誘導することが出来、放尿することも無くなりました。また、排便の前の行動が分かるようになったことでトイレ誘導が出来、リハビリパンツとパット使用からボクサーパンツとパットになりました。

## 4. 入浴について

- 衛生面にも考慮し、ご利用者にゆったりとした気分で気持ちの良い入浴を提供するため様々な問題に対して次のようなことを対応してきました。
  - ・ 入浴をする際、衣類交換することを拒まれたり、洗濯から衣類が直ぐに戻って来ないと異常に不安になる方の対応として、安心して頂くため、小型洗濯機で洗濯し直ぐにご本人のいる居室に持ちよりハンガーにかけ居室で乾かして頂くなどの工夫をしました。
  - ・ 家内の介護職員が声かけをしても入浴を拒否される時は、そのご利用者と相性のよい他の家の介護職員に声かけをして頂き入浴を促してもらうなどの工夫もしました。

## 5. 行事やアクティビティー

- 生活のマナー化を防ぐため、季節ごとの行事に参加して頂き、その季節感を目と体で感じて頂くことで、自主性と意欲を引き出せるよう支援して参りました。今では自発的に「今日は何かやらないのか！」と訴えて下さるご利用者もおります。
  - ・ 春と秋の暖かい日には、なるべく外気浴をして頂き自然の景色を眺め季節を肌で感じながら軽く体を動かすレクリエーションを行いました。
  - ・ 運動会では、当日に向け数日前から玉入れの練習をするなど楽しみながら参加することが出来ました。
  - ・ 冬季は寒く殆んど中で過ごす日が多いため、ご利用者のストレスが溜らないようにとレクリエーションを多く行いました。また、ビデオ鑑賞や歌を歌われたりカルタ取りをしたり、大ホールで各家のご利用者が集まり週3回行なわれるレクリエーションにもなるべく参加して頂きました。他の家のご利用者との交流することにより新たな楽しみが増えたようです。

## 6. 一年を振り返って

早いもので「なごみの家」に配属になり1年を迎えようとしています。当初、私事でありますがホームを留守にしてしまったことで、ご利用者及び職員の皆様に大変ご迷惑をおかけしたとともに、逆に心配して頂き申し訳なく思いました。

ご利用者についても、職員の異動に伴い不安も与えてしまったかと思いますが、日が経つにつれ徐々に受け入れてもらえる手応えを感じ、それを励みに支援して参りました。

本年は2名のご利用者の方がお亡くなりになり、淋しい日を送ることもありましたが精一杯の終末ケアをさせて頂きました。

ご利用者の中には、自立を目指し自ら取り組もうとされている方や、帰宅願望を抱いている方、不安を抱いて生活をされている方、拒否される方等、精神面においても、多くの声かけとコミュニケーションを図り、心のケアを大切にすると共に、意欲の促進が大切だと改めて感じさせられました。帰宅願望を抱かれていますご利用者においては、他部署の方に大変お世話になりご迷惑をかけてしまう事が多々ありましたが、その都度快く対応して下さいとて有難く感じています。また、その方の唯一の安らげる場所として、これからも温かく見守り、今まで同様、色々な面でも他部署の協力を得ながら居心地の良い生活を送れるよう支援して参りたいと思います。



## 平成17年度 ゆとりの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

- ・ 新体制当初は、ご利用者同士のトラブルが多く見受けられたり、自らの行動により怪我をされた方がいたりして、この先、この方々と暖かい家が持てるのかとても不安であり、またどうしてこのような状況になってしまうのか、様子を見ていたところ、食事時のトラブルが多いことが分かり、下膳方法を変えたり、食事中でも多く声かけを行った結果、現在ではトラブルも減りご利用者間やご利用者と介護職員間において何でも言い合え、間違っていることは本気で叱り合える関係になって来たと思います。今でも時々ご利用者同士の本気の喧嘩や悪戯なども耐えませんが、次の日には何も無かったかのように会話が進んでいるようです。

ゆとりの家は、ホールとスペースに分かれているため、ちょっと気まずいと思った時に距離をおいて気分転換が図れるスペースがある事は、他のユニットに無い良い点だと思いました。

### 2. 食事について

- ・ 外に出られる機会が少ないご利用者の方々に少しでも季節感を多く味わって頂けるよう、ホーム菜園の野菜を利用したり、ご利用者自ら収穫された物や介護職員が必死で収穫して来た、様々な旬の素材を生かし下手な料理を食べて頂きました。なんだこんな旨くね物作ってとの言葉は聴かれませんが、口にする事によって自然に表情も朗らかになり食事の会話も増え、ある方は今まで、きのこ禁でしたが自然の美味しさに負け、どうしてこんな美味しい物を今まで食べなかったんだべ、損したな〜と、現在ではきのこ禁では無くなりました。本当に嬉しい事です。毎日の食事の中でもご利用者が食べたい物を選び、楽しむ食事があると気持ちにも表れて来るのではないかと感じました。

### 3. 排泄について

- ・ 夏頃まではトイレ介助だった方が、看護職員と毎日の歩行リハビリや排泄ぐらいは自分でしたいとの硬い意思で訓練してきた結果、現在ではパット外しに成功、自立排泄出来る状態になり、本人の精神的部分の軽減や表情の硬さも少なくなって来たように感じます。また、尿漏れが多く、居室の臭いが気になっていた方には、声かけを十分に行い、ご利用者の方からの暴言が出ておめげずに取り組んで来た結果、居室の汚れなどは殆ど見られなくなりましたが、別な面で動きがスムーズでないためトイレでの排尿ではなく、パットへの排尿が増えたようです。

度々夜間者の方から毎朝のように尿漏れがあり、衣類だけではなく布団交換も多いのでどうにかならぬものかとの声が聞かれ、いろいろな方法を試みては見ましたが上手く解決の方向には至らず、現在もこの状況は続いております。今後の課題点として考えて行きたいと思います。

#### 4, 入浴について

- ・ 自分の家にお風呂がある事によって、ここは自分の居場所だなどの意識は強いように感じます。入浴だけは時間に流されることなく気持ち良く、ゆったりと入って頂いております。

以前は、特浴にて入浴されていた方で、足の痛みも和らいで来たので家のお風呂に入って見ませんかとお誘いしたところ、本人も納得され入浴して頂いております。

入浴前には、介護職員の話術が必要とされ大変ですが、入浴後に、『あ〜気持ち良かった。また入ろう。』との言葉が聞かれるとほっとしております。心配な面としては、車椅子ご利用者が多いためお風呂場の入り口が狭いのでちょっと危険な部分かと思われれます。

#### 5, 行事やアクティビティの取り組みについて

- ・ おやつ作りなどを通して、ご利用者間のコミュニケーションを深めようと思いましたが、介護職員が思っているように上手く事が運ばず、他の方に遠慮し手を出せない、出してくれないと云った状況でした。これではおやつ作りなど出来ないと思いましたが、何度か取り組んでいるうち、声かけによって集まり出し、和気あいあいとした中で行うことが出来、多くの笑顔も見られるようになりました。また、外に出かけられる機会があまりありませんでしたが、食事を兼ねた買い物ツアーは大変好評で気分転換にも繋がり、これからも機会を設け実施して行きたいと思っております。

#### 6, 一年を振り返って

- ・ 一日の流れが作業的になってしまい、ご利用者との関わる時間が持てず、レクなどは看護職員にお任せ状態になってしまった事が反省点として挙げられます。その中でも嬉しくなってきた出来事も沢山あり、一日を主にベッド上にて過ごされている方で、介護職員がすぐ目の届く所に居室替えを行い、体のタッチや声かけを増やしたところ、表情も豊かに発語も多くなりました。

この一年間いろいろありましたが、1名の退居者を出したことは残念ですが、14名のご利用者の方々は大病も、大きな怪我もなく過ごす事が出来、介護職員一同本当に嬉しく思いました。

## 平成17年度 ひだまりの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

- ・ 食事時間に起きられないご利用者に対し、随時居室での様子を見、しっかりと覚醒した状態で離床し食事を食べて頂いたり、次の食事時間まで間もない場合は、おやつ等軽いものを提供し食事をしっかり食べて頂きました。個人専用ランチョンマットの使用と滑り止め食器から、少し深めの陶器の器にすることにより、家庭らしい雰囲気になったと思います。精神面のケアは難しくまだまだ対応しきれないことがあります。前年度に比べご利用者間のトラブルも減り笑顔の多い家になってきたと思います。個々に合わせた支援に時折限界もあり待つて頂くことがありました。

### 2. 食事について

- ・ 好き嫌いが多くその都度、厨房にお願いし対応して頂きました。ペースト・超キザミのご利用者については厨房で対応していただき、キザミのご利用者はフードプロセッサーと包丁で刻み対応しました。常食のご利用者でも硬い物に関しては刻みを提供しています。それでも食事量が少ないご利用者は十分な栄養が摂れずサンエツ等で補っている状態です。

### 3. 排泄について

- ・ 個々の排尿パターンに合わせた排泄用品の使用と、トイレ介助を行うことにより褥瘡予防に力を入れてきましたが、時々皮膚の剥離や切れることがあり処置をお願いすることがありました。排便に関しては、看護職員と相談し、下剤等の調節を行ったり、野菜ジュースの提供、排便間隔を把握しトイレ介助を行うなどすることにより、少しずつ改善されてきたように思います。

### 4. 入浴について

- ・ 入浴を好まないご利用者が多く、いかに気持ちよく入浴して頂くか日々奮闘しています。毎日入浴したいご利用者の希望に応えられていない状態にもあります。

### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

- ・ 西棟での行事に関しては、積極的に参加されるようになってきました。しかし東棟での行事には距離があるせいか「行きたくない。」との声があり、参加されるご利用者が少ないのが残念です。声かけを十分に行い行事に参加して頂けるようにして行きたいと思います。また、前年度に比べ、西棟全体で行う行事を他の家と相談し実施することができ良かったと思います。

畑作りは、殆ど職員が行っていますが、外に出るきっかけ作りになることと、野菜の成長と収穫が、心の癒しとなっていたことにより大変でも今後も作って行きたいと思います。

- ・ 今後の検討事項として、家毎に分かれての食事ばかりではなく、気分転換のためにも、他の家のご利用者と一緒に食事が摂れるような誘導や工夫により川俣等に出かけ食事や買い物に出かけることが出来ましたが、今後も時々出掛けられるようにしたいと思います。

## 6, 一年を振り返って

- ・ ご家族とのトラブルがあり、改めてご家族との信頼関係の大切さが分かりました。その後面会時には今まで以上にご家族と話すようにしています。
- ・ 個々に合わせたケアを行うことにより、職員の動きがあわただしくなってしまうことがあり落ち着きのない雰囲気になってしまうことが度々ありました。
- ・ 結果を急がず 1 日 1 日のケアを大切にしていきたいと思います。
- ・ ユニットケアになり 2 年が過ぎ、沢山の出来事があり本当の家族にはなれないけれど「明日も来てね」「今日の早番遅番は誰?」「ありがとう」「待っていたんだ」などのご利用者の言葉から、家族という関係に少しずつではあるものの近づけて来ているのかなと感じています。

## 平成 17 年度 ぬくもりの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

年間を通し取り組んで来た事は、声掛けをし、散歩、外気浴、レクリエーションの参加に力を入れてきました。運動を少しでもする事により、ADL のレベルダウンを防ぐことが出来ました。また、他の方とも触れ合う事によりコミュニケーションも十分とることが出来ました。反面、散歩に行かれる方とフロアに残られる方に分かれてしまい、目配りに欠けてしまいました。他の家の介護職員さんや看護職員さんのご協力の下、大きなトラブルやアクシデントもなく過ごす事が出来ました。また、ご利用者のその日の気分により、運動をしない時もあり声掛けのタイミングの難しさを感じました。

他の家との交流会も、行事や日々生活の中で自然と持つことが出来ました。大きな交流会としては、ひだまりの家と合同で、長のり巻き作り、おでんパーティー、西棟全体では、スパグッティパーティー、芋煮会、クリスマス会、新年会をすることが出来ました。また、他の家と交流を持つことにより、いつもと違う雰囲気となり良かったと思います。

大きな行事の中で、準備不足やアクシデントもあったりしたので、準備の段階でもう少し綿密に話し合いを行い、スムーズに流れるよう工夫すれば良かったと思いました。

横山チヨさんの賀寿祝いの際は、踊りの練習時間を早めに設けられず、皆さんにご迷惑をかけてしまいました。もう少し早めに、取り組めば良かったと思いました。しかし、ホーム全体のご協力の下、楽しい雰囲気の中で祝いの会、食事会を行うことが出来たことは、大変嬉しく思いました。

### 2. 食事について

朝食は、特に個々にあった時間に提供する事が出来ました。自分から目覚められてから召し上がることにより食欲が出たようです。しかし、傍についてあげる事が出来ず、一人で食べる状況となってしまったので、もう少し工夫が必要だと感じました。

家庭菜園で採れた野菜を料理し提供することにより、話題にもなり、ご利用者同士の繋がりがより一層深くなったように思います。また、野菜を好まない方も、家庭菜園の野菜は、美味しそうに召し上がられていました。特に、もろきゅう、なす炒めは好評でした。

食べない人にどう食べてもらうか、職員間の情報交換、栄養士、看護職員のご協力の下、ストロー使用からマグカップ使用へ、経管者が経口摂取する事が出来ました。これからも、残食の多い物をどの様にしたら食べて頂けるか、工夫がまだまだ必要だと感じました。

### 3. 排泄について

排泄パターンをつかむことにより個々に合ったパッドを使用し、トイレ誘導、介助する事により、オムツ、パッド外しも出来た方もおりました。反面、尿失禁の方の対応が未だつかめず、時間を見てトイレ誘導したり、尿臭を感じた時に声掛けをしている状態です。

個々に合った排泄時間を持つことで、皮膚トラブル、尿漏れがなくなり清潔保持ができ快適に過ごして頂くことが出来ました。また、皮膚トラブル予防のために、日勤、夜勤者のご協力の下、馬油塗布を毎日続けています。

#### 4. 入浴について

- ・ 時々、マイバスタオル、マイタオルを使用して頂きました。
- ・ 入浴剤を昨年に引き続き使用する事により、お風呂に入る楽しみを持って頂くことが出来ました。また、季節により入浴剤を変え、その時の季節感を味わって頂きました。（例えば春は桜の香り、冬はゆずの香りなど）
- ・ 昨年に引き続き六十〇ハップを利用する事により、水虫防止、悪化防止が出来ました。
- ・ マイバスタオル、マイタオルを毎回使用する事が出来なかったのが、毎回使用する様に工夫出来ればと思います。
- ・ 入浴中、ゆったりと入浴して頂けるよう工夫をすれば良かったと思います。（例えばBGMなど）

#### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

横山さんの賀寿祝い在家全体（協力）でお祝いする事により、一つの目標に向かうことが出来、祝いが終わってから達成感を職員だけでなく皆で味わうことが出来ました。

家庭菜園では、色々な野菜を育てる過程で、ご利用者からアドバイスを頂きました。収穫時は、目で楽しみ、触感を楽しみ、舌で楽しむ事が出来ました。また、昔、自分が野菜を作っていた頃を思い出され、ご利用者同士の会話が弾んでいた様です。しかし、車椅子ご利用者の方が多いため「自分で収穫」して頂く事が出来なかったのが残念でした。

#### 6. 一年を振り返って

- ・ いろいろな活動を通して活気があった。また、職員間の報告、連絡、相談を、家ノートなど利用する事により、ご利用者の状況把握が出来、統一したケアができました。
- ・ ご家族へのお便りを偶数月に出し、ホームでの生活の様子を知らせる事はとても良かったのですが、ご家族からの反応が見られなかったのがとても残念なので、来年は、お便りで家族の方の関心がホームに向くようなお便りにしたいです。
- ・ 訴えの多い方に対する対応はその都度行って来ましたが、何も要求をされない方に対しては「何をして欲しいのか」聞いてあげる事があまりできなかったのが、工夫が必要だと感じました。

## 平成17年度 くつろぎの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

レクリエーションや、ご利用者に合った生活リハビリ、お手伝いなどを積極的に取り組んできました。そのことにより、歌が好きだったり、絵を描くことが上手だったり、字がきれいだったり、面倒くさがりだったり、負けず嫌いだったり、物知りだったり、普段の生活では知ることの出来ない色々な面を知ることが出来ましたし、介護職員として、いろいろな面で勉強させられました。

また、ご利用者も前向きになり、「〇〇をやりたい」というような声が増えてくるようになり、ご利用者主体の生活が、出来るようになりました。

ご利用者が、入院され、寝たきり・経管栄養の状態で帰られ、ショックを受けたこともありました。しかし、皆が同じ気持ちで、同じ目標で（口から食べ、トイレで排泄できるようになる。）ケアを行い、スキンシップ・コミュニケーションを多く持つことにより、手や、口を動かしてくれるようになり、良い表情が見られるようになりました。

2名のご利用者とお別れもありました。他のご利用者が涙を流し思いの言葉をかけ本当の家族を見送っているようでした。一緒に生活し、共に暮らしてきたからこそできたのだと思います。介護職員も、熱いものがこみ上げてきました。お別れを通して、最後は、家族に看病して頂いたり、あまり交流がなかった兄弟達が駆けつけてくれたり、と家族の絆の大切さ、ありがたさを感じさせられました。「くつろぎの家族で良かった。」「いいたてホームで良かった。」と心から思ってもらえるような家庭を築いて行きたいと思います。

ご利用者のストレスから、暴言や、落ち着かない等という行動がどうしても冬場に多く見られます。原因としては、家族の面会などが考えられるのですが、介護職員として、声かけを多くし、見守りするなどいろいろ努力しているつもりですが、ご利用者の淋しい気持ちを埋めることができず悩んでいます。これからもいろいろ努力して行きたいと思います。

### 2. 食事について

「家」という観点から、季節の野菜、山菜など介護職員がもちより、ご利用者と一緒に下ごしらえを行い、調理し食べて頂くことで季節感を味わって頂きました。

自分達の畑があって、野菜の成長を楽しみながら、野菜を提供できれば良かったなと思いました。

食事を美味しく食べて頂くためには、食前体操や、毎食後の口腔ケアなどで、特に口の中をきれいにすることにより、残食が少なく、なんでも食べてくれています。これからも、続けて行きたいと思います。

おやつ作りは、家族からの頂き物がたくさんあり、それを食べて頂くことが多くなり、次第に回数が少なくなってしまい残念に思いました。

### 3. 排泄について

オムツ使用で入居されたご利用者も、座位が可能であれば、トイレ介助をする事により、尿意を感じ布パンツになりました。また、肌のトラブルを少なくするために、日中パットを外しているご利用者もいます。

便に執着し、何度もトイレに通われるご利用者や、便秘気味のご利用者もいます。朝、冷たい水を飲んで頂いたり、水分を多く摂取して頂いたり、スムーズな排便が出来るよう工夫してみましたが、なかなか改善できませんでした。

### 4. 入浴について

週2回の入浴ですが、楽しく入浴して頂きました。六十〇ハップや、入浴後クリームを塗布する事により、皮膚の乾燥や、痒みがなくなったようです。

マイタオル・マイバスタオルを使用してみました。ご利用者が、着替えや、タオルを持って行くことにより、自分のタオルだと言う安心もあり、お風呂に入ることが、今までとは気分的に違うようでした。ちょっとした事でこんなに喜んでもらえるとは思いませんでした。もう少し早く取り組めばよかったと思いました。

### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

運動会・音楽祭・学習発表会などに出掛け、地域との交流を深めました。また、弁当をもってドライブにも出掛けました。外出時のご利用者の顔は生き生きされており、気分転換にもなりとても喜んで頂きました。しかし、車で移動中、車の中で車椅子からずり落ちるというアクシデントがあり、車での移動には十分に気をつけたいと思います。

夏祭りや敬老会では、ご利用者からの提案で、手踊り・「きよしのズンドコ体操」を披露しました。また、クリスマスには、西棟のご利用者でハンドベル演奏をし、皆でやることの意義・達成感・喜びを味わう事が出来たように思いました。

他の家との交流会も何回か企画したところ、普段とは違った表情を見ることができ、楽しんでくれました。これからも、もう少し回数を増やし他の家との交流を深めたいと思います。

誕生会では、くつろぎの家で調理し、声かけずとも家族方が来てくれ、一緒に食事をしながらお祝いをしました。また、回を重ねる度、ご利用者・ご家族・介護職員とのコミュニケーションを取ることが出来、家庭的になるなど、ご利用者同士思いやる気持ちが深まったように思います。

### 6. 一年を振り返って

今年1年間、くつろぎの家のご利用者から多くの事を学ぶ事が出来ました。一緒に生活することで、楽しく笑ったり・喜んだり・感動したり・泣いたり・悩んだり・悲しんだり・怒ったり・怒られたりしながら、本当の家族のように接し、介護職員としての喜び・楽しさ・感動・大変さを感じることが出来ました。これからも、ご利用者に合ったケアをし、ご利用者主体の、ご利用者が楽しく生活出来るよう工夫して行きたいと思います。



## 平成 17 年度 やすらぎの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

在宅に近い雰囲気作りに心がけ、ゆったりと気持ちよく生活して頂くことに重点をおいた。体調の変化だけでなく心の変化も見のがさぬように気配りし、お客様同士のトラブルが起きないように介護職員がクッション役になり過干渉緩和に努めた。

また、退居時の衣類の紛失が度々あったので、着替え時の洗濯物は、洗濯、乾燥、片付けまでをやすらぎの家の介護職員が責任をもって行い、夜間に洗濯物が出た時には夜勤者にノート記入して頂く事により、他の方の洗濯物に紛れ込むこともなくなり課題解決に繋がってきている。また、入居中のお客様に安心して過ごして頂くと共に、ご家族の方にも安心してご利用頂けるように心がけていきたい。

### 2. 食事について

食べる楽しみを目でも味わってもらうため、刻み食や、食べにくそうな物も、料理を見て頂いてから刻むようにした。確認することにより豆腐や柔らかいものは形のまま食べて頂けた。家庭では台所に立つことがない方に、得意の腕を振るってもらいスコッチエッグや漬物、切り干し大根を作って頂き皆で美味しく食べることができた。また、皆で海苔巻きやいなり寿司を作り、作る楽しみも味わった。反面、料理のできるお客様が来たときに急に予定を立て厨房に迷惑をかけてしまった。これからは計画的に事を運びたい。

水分をとって頂くため毎食お茶と水を出し、入浴後は氷を浮かべた水を出し喜ばれている。お茶も時間を決めず随時出すようにし、こまめに水分を飲んで頂き健康面にも留意した。

### 3. 排泄について

入居された時には尿量が少なかったり、濃い色のお客様も水分を充分に取って頂く事により、尿量が増えたりきれいな色に戻っていただいた。また、尿量が増えたことにより、尿意の訴えがあり、オムツからトイレでの排泄に移行された方もいた。本人の持てる機能を活かし、在宅ではオムツ使用のお客様も立ち上がり可能な時や、本人の訴えがあった時はリハビリパンツを使用し、トイレ介助を行いトイレでの排泄習慣に結びつく事ができた。

### 4. 入浴について

他の施設利用時も機械浴だったお客様が、立ち上がりが安定していたので個室にて入って頂いたところ、「家の風呂に入ったようだ」と、とても喜んでくれた。また、個室のお客様を特浴のお風呂に案内すると、「温泉に来たみたいだ」喜ばれた。概念にとらわれず入浴を楽しんで頂くのも大事かもしれないと思った。

入浴を嫌がるお客様には、時間をおいてから入って頂き。家に個室があるから、時間を気にせずお客様に合わせる事ができた。在宅では入浴できないお客様や入浴希望でショート利用されるお客様に、満足してもらえる入浴回数の見直しも必要である。

## 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

新年会、夏祭り、敬老会、運動会など、ホーム全体の行事には積極的に参加された。特にその時の行事食はいつも小食の人も全部食べてくれた。西棟の食事会には介護職員が、茹でたてのスパゲッティーを提供し「初めて食べたがおいしかった」など食事を通して満足されたようだ。

合同レクについては参加者が少なく、久しぶりに会ったお客様同士の会話だけ弾む姿が多くみられた。体を動かすようにリハレクに取り組む予定をしていたものの、風船遊びやカラオケなど手軽なものは楽しそうに行っていたが他の物には消極的であった。

## 6. 一年を振り返って

車椅子移乗時、すり落ち、骨折する事故があった。自分でできるお客様だと安心せず、また、自立だけにとらわれず、利用中は、病気や怪我をしないよう甘えて貰う事も考慮すべきと反省させられた。また、家族の都合で本人が納得いかないままの入居は、ストレスとなり帰宅願望、徘徊、不穏、他動へと繋がっているようだ。ショートステイが楽しい、時々遊びに来たいと思える家づくりはどうすれば良いのかを常に考慮し、やすらげる家づくりを目指して行きたい。